

## お話の人ぶつと自分をくらべて、かんそうを書こう

中心学習材 「わたしはおねえさん」(光村図書2年下)

補助学習材 「すみれちゃん」「すみれちゃんは1年生」「すみれちゃんのあついなつ」(偕成社)

〈育てたい主となる能力〉

◎文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。(読オ)

〈単元を貫く言語活動〉

◎登場人物と自分とを重ね、感想を書く。

### 1 子どもと単元について

子どもたちは、2年生での「読むこと」の学習として、「たんぼぼのちえ」ではテーマ読書(植物が種子を残すための工夫が書かれた本を読むこと)をし、これまでの知識も加えながら感想をまとめたり、その感想を発表し合ったりする活動を行った。また、「スイミー」では、スイミーの言動や場面の様子について想像を広げ、心に残った文章や言葉を書き抜き、スイミーに言ってあげたいことを書いて発表し合う活動を行った。これらの学習を通して、子どもたちは文章から場面の様子や人物の行動を想像したり、感想をもったりする力を高めてきている。日常においては、本を読むことが好きな子どもが多く、図書室や学級文庫、ブックトラックの本を進んで読んだり、お薦めの本を紹介し合ったりしながら読書に親しんでいる。

中心学習材「わたしはおねえさん」の主人公すみれちゃんは小学2年生であり、まさに子どもたちと等身大の登場人物である。すみれちゃんが、妹の落書きによって起きた心の葛藤を乗り越え、自分より幼く弱い立場にある者を理解し、お姉さんらしく成長する物語である。子どもたちは、主人公のすみれちゃんが同年代ということで、今まで以上に登場人物に親近感をもつであろうと思われる。そのため、自分の経験と重ね合わせたり、共感したりしながら、すみれちゃんの行動について思いをはせることのできる学習材であると考えられる。

指導に当たっては、次の二つを大切にす。一つ目は、子ども一人一人が自分の思いや考えをもてるようにすることである。そのために、1年生とのふれ合いの機会を設ける。弟や妹がいない子どもたちにとっては、すみれちゃんの悔しさや心の葛藤などを十分理解できないことも考えられる。この活動を行うことにより、年下の子どもと接した時の自分の失敗や成功の経験を重ねながら、すみれちゃん的心情や行動の理解を深め、自分なりに感想をもつことができるものとする。また、補助学習材として“すみれちゃんシリーズ”を並行読書することにより、同年代の主人公と自分とを比べる読書体験を十分に行わせることができ、並行読書してきたことを想起しながら、感想をより深められるものとする。二つ目は、自分と比べた感想の書き方を理解することである。そのために、簡単な文型(①心に残ったところ ②心に残ったわけ ③自分と比べる)を教え、自分と比べる感想文の書き方を理解することができるようにする。すみれちゃんの言動と自分を比べる感想の書き方としては、“わたしもこんなことがあったよ”や“わたしだったら～”のパターンを示し、この例を基にして書くようにする。こうした学習をしていくことで、子どもたちは中心学習材におけるすみれちゃんの言動を想起しながら、登場人物と自分を比べたり読書体験を重ねたりしながら、感想をもつ力を高め、自分なりに感想を書くことができるようになるものと思われる。

### 2 単元の指導目標

◎登場人物に自分の経験や気持ちを重ねながら、興味をもって読もうとしている。【関心・意欲・態度】

◎登場人物の言葉や行動と、自分の経験とを結び付けて、登場人物と自分を比べた感想をもつことができる。【読むこと オ】

◎文の中における主語と述語との関係に注意することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ)】

### 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○すみれちゃんと自分の体験を比べたり、自分の考えを重ねたりしながら読もうとしている。	◎すみれちゃん言葉や行動から自分の経験を思い出し、すみれちゃんと比べたり、自分の考えを重ねたりしながら感想をもっている。	○文の中の主語と述語に気を付けて読んだり、書いたりしている。

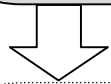
4 学習指導計画（全12時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

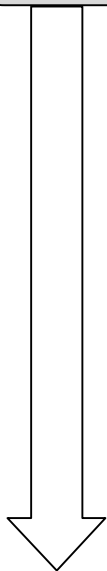
第1次  
単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。  
（1時間）



課外  
1年生となかよしになろう。

第2次  
「わたしはおねえさん」を読み、感想の書き方を学ぶ。  
（6時間）

並  
行  
読  
書



第3次  
並行読書してきた本の登場人物に感想文を書く。  
（5時間）

- ① 友達の書いた感想文を読み、感想文を書くことへの関心を高めるとともに、本単元で書いた感想文を家の人に読んでもらおうというめあてを設定し、単元の見通しをもつ。

<評価>

- ① 物語の感想を書くことに関心をもち、本単元の見通しをもとうとしている。《発言・態度》

・1年生と交流する。

- ② 「わたしはおねえさん」を読み、すみれちゃんはどうな女の子であるかを整理し、物語のあらすじをつかむ。
- ③ すみれちゃんの言動に対しての感想を書いたモデルを基に、登場人物への感想の書き方を学ぶ。（心に残った叙述からや一連の行動からの感想、選んだわけ、自分と比べる感想、読書体験想起）
- ④ すみれちゃんの言動から心に残ったところや不思議だと思ったところを見付け、感想カードに書く。
- ⑤ 感想カードに、すみれちゃんと自分を比べた感想を書く。
- ⑥ 感想カードを使い、感想文をまとめる。
- ⑦ 書いた感想文を読んで交流する。

<評価>

- ② 中心学習材を読み、すみれちゃんがどんな女の子をつかみ、「いつ」「出来事」に分けて物語のあらすじをとらえている。《発言・ワークシート》
- ③ 登場人物への感想の書き方を理解している。《発言》
- ④ 心に残ったところや不思議だと思ったところを見付け、感想カードに書いている。《感想カード》
- ⑤ 自分と比べる感想カードの書き方を理解している。《感想カード》
- ⑥ 簡単な文型に合わせて、感想文をまとめている。《感想文》
- ⑦ 友達の感想文のよさに気付いている。《交流の様子・ワークシート》

前単元の「スイミー」で学んだ、叙述から思ったことを書く知識・技能を生かして感想を書く。

- ⑧ すみれちゃんシリーズの本を読み、心に残ったところを選び出す。
- ⑨ 並行読書してきた本の中から、一番お気に入りのすみれちゃんがかかれている本を選ぶ。
- ⑩⑪お気に入りの本の感想と、その場面のすみれちゃんを選んだわけ、自分と比べた感想を感想カードに付け加えて書く。
- ⑫ 感想カードを基に感想文を書いて交流し合い、単元の振り返りをする。（本時）

<評価>

- ⑧ 並行読書のすみれちゃんの言動から心に残ったところを選び出している。《態度》
- ⑨ 並行読書の本や感想カードを手掛かりにして、お気に入りの本を選んでいく。《態度》
- ⑩⑪叙述や人物の一連の行動から自分を比べて感想を書いている。《感想カード》
- ⑫ 文型に合わせ、感想文を書いている。《感想文》この学習でどんなことができるようになったかを書いている。《ワークシート》

第2次で学んだ、登場人物と自分をと比べて感想を書く知識・技能を生かして感想を書く。

【国語科活用場面】

○人物の行動を中心に想像を広げながら読み、自分の感想を基に物語を紹介する。

（「スーホの白い馬」）

【他教科等・日常活用場面】

○主人公に自分を重ねながら読む。（読書）

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

感想カードを基に文型に合わせて自分と比べながらすみれちゃんシリーズの本の感想文を書くとともに、この単元の学習でできるようになったことを確かめることができる。

### (2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

前時までの学習では、中心学習材のあらすじをとらえ、すみれちゃんの行動や様子から想像を広げて読んだ。また、すみれちゃんの言動から心に残った言葉や文を見付け、自分とすみれちゃんを比べて感想を書く力を身に付けてきた。本時では、その知識・技能を生かし、並行読書の中のお気に入りの本について感想カードを基に感想文を書く。

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     すみれちゃんシリーズの本のかんそうを文にまとめ、できるようになったことをたしかめよう。                 </div>		<p>○学習計画に沿って単元における本時の位置付けの確認を行い、学習課題を確認する。</p>
<p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 感想文の書き方と交流の仕方を確かめる。</p> <p>(2) 感想文を書く。</p> <p>(3) 感想文を交流し合う。</p> <p>(4) 感想文を紹介する。</p>	<p>○自分と比べた感想文の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残ったことをカードに書くこと</li> <li>・自分と比べた感想を書くこと</li> <li>・感想カードを使い、感想文の文型に沿って感想文を書くこと</li> </ul> <p>○感想文の文型</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 心にのこったところ</li> <li>② 心にのこったわけ</li> <li>③ 自分とくらべる</li> </ol> <p>○交流の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいなと思ったところ</li> <li>・自分と似ているところ</li> <li>・自分が気付かなかったところ</li> </ul>	<p>○第2次で学んだ、自分と比べた感想文の書き方と感想文の文型を確かめ、感想文を書く方向付けを図る。</p> <p>○感想文の文型を示し、文章を組み立てながら感想文にまとめることができるようにする。</p> <p>○感想文は感想カードを使って書くとともに、選んだ本も使い、本で振り返りながら文章を書くことができるようにする。</p> <p>○書き出せないでいる子どもには、第2次で示した感想のモデルを掲示しておき、感想文を書くときの手立てにさせる。</p> <p>○感想文の交流は選んだ本ごとに行い、すみれちゃんの言動への感じ方が様々あることや、友達の感想文のよさに気付くことができるようにする。</p> <p>○何人かの感想文の発表を全体で聞き合い、感想を共感し合えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈評価〉選んだ本の感想文を自分と比べながら文型に合わせて書いている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【感想文】</b></p> </div>
<p>3 単元の学習を振り返る</p> <p>(1) 自己評価する。</p> <p>(2) 発表し合う。</p>		<p>○自分と比べながら文型に合わせて感想文を書くことができたかを記号で評価し、授業の感想や本単元でできるようになったことを記述し、本単元で付けた力を実感できるようにする。</p> <p>○本単元で付けた力をどこで生かせるかを示すとともに、書いた感想文を家の方々に読んでもらい、感想をいただくことを確認し、感想文を書くことや更なる読書への意欲付けを図る。</p>

